

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 福間聡	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>A. 教育</p> <p>(1) 初年次ゼミ (前期)</p> <p>大学で学ぶ上で必要なアカデミック・スキルを新一年生が体得できるよう心がけた。とりわけ、テキストの批判的読解、文献・資料の検索、レポートの書き方、ディベートの流儀を重点的に指導した。</p> <p>(2) 法哲学/現代社会と法 (前期)</p> <p>J.ロールズの正義論の特徴を過去から現在の正義論の系譜を踏まえながら講義した。受講者が現代社会におけるロールズ正義論の意義を理解し、今日の社会的諸問題を哲学的に考察する能力を身につけられることを本講義は目標とした。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように努めた。</p> <p>(3) グループ研究 (後期)</p> <p>公共的な諸問題について参加者と共に議論 (ディベート) し、これからの日本と世界のあるべき姿について考察する力を受講者が身につけることができるよう本講義では努めた。ディベートを行うに当たって、単にメリット・デメリットの観点のみならず、哲学・倫理的な概念分析を踏まえた議論の仕方を受講者が体得できるように指導した。</p> <p>(4) 公共哲学/現代社会と法 (後期)</p> <p>「公共性」にまつわる諸問題を考察することを通じて、我々にとって望ましい公共的な生とはどのようなものであるべきかについて、受講者が自分の考えを持つことができるようになるように努めた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>(5) 倫理学 (後期)</p> <p>本講義では、「善の根拠」「トローリー問題」「快楽機械」「道徳的運」「動物の権利」「刑罰の必要性」「移民の受入」「正戦論」といった問題群を受講者と共に検討した。受講者が、倫理的な問題に対する自分なりの考えを持つことができ、他人に自分の考えを適切に説明することができるようになるように試みた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>B. 研究</p> <p>(1) 論文</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・福間聡『「格差の時代」の労働論 —ジョン・ロールズ『正義論』を読み直す』(2014年9月) 現代書館 (単著)</li><li>・FUKUMA Satoshi "Rawls in Japan: A Brief Sketch of the Reception of John Rawls' Philosophy," <i>Philosophy East and West</i>, 64(4) 887-901, Oct 2014.(single author)</li></ul> <p>(2) 科学研究費</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・科学研究費助成事業基盤研究 (C)「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」研究期間: 2014年4月 - 2017年3月 代表者: 福間聡</li></ul>	

C. 社会貢献

(1) 非常勤講師

・立教大学コミュニティ福祉学部・大学院にて、「公共哲学」(前期)、「コミュニティ・スタディ(演習)」(通年)、「コミュニティ平和論」(後期)、「福祉人間学研究」(後期)を講義した。

D. 学内業務

・メディア出演

(1) ラジオ高崎「ラジオゼミナール」の収録(2014年10月11日、18日放送)

・出前講義

(1) 茨城県立太田第一高等学校での模擬授業 2014年10月31日

3 次年度以降の計画・抱負

来年度も「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」というテーマを軸に、研究・教育活動に邁進したい。